

(様式3) 【学校用】

ふるさと教育 取組事例

学校名	出雲市立荘原小学校		
学 年	主な教科等	主に関わる単元名	活用した教育資源 (ひと・もの・こと)
4	社会科	残したいもの 伝えたいもの ～荘原に伝わる羽根盆おどりから～	羽根盆おどり愛好会 (ひと) 荘原コミュニティセンター (ひと) 出雲市役所文化財課 (ひと) 羽根盆おどり (こと)
ねらい	羽根盆おどりを守り受け継いでいくための取組を、学んできたことや願いに関連付けて、それぞれの立場で話し合うことで、地域の一人として自分たちにできることを考え、適切に表現できるようにする。		
<p>1 取組の概要</p> <p>荘原に古くから伝わる伝統文化の「羽根盆おどり」の保存や継承のための取組に着目したり、大切に保存し受け継いできた人の工夫や努力、願いにふれたりすることで、その意味を考え自分はそのように受け継ぎ、関わっていきたいか選択・判断する学習を展開した。羽根盆おどり愛好会や荘原コミュニティセンター、出雲市役所文化財課の方をゲストティーチャーとして活用することで、無形文化財を守り受け継ぐことの努力や苦勞、難しさを体験的に調べることができると考えた。</p> <p>2 ふるさとの「ひと・もの・こと」をどのような力を付けるために、どのような意図をもって活用したか。</p> <p>(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <p>保存や継承を進めている羽根盆おどり愛好会の方に、羽根盆おどりを教えていただき、一緒におどることで、荘原に古くから伝わる伝統文化の羽根盆おどりに対して、児童が愛着をもつことができると考え活用した。</p> <p>(学力育成の視点から)</p> <p>ゲストティーチャーを活用することで、無形文化財を守り受け継ぐための取組だけではなく、願いや思いについてふれることができると考えた。また、羽根盆おどり愛好会の力だけではなく、荘原コミュニティセンターや出雲市役所が保存や継承に大きく関わっていることについてつなげて考えることができると考え活用した。</p> <p>3 児童・生徒に見られた変容(どのような力が身に付いたか等)</p> <p>(ふるさとへの愛着や誇り、貢献意欲の視点から)</p> <p>羽根盆おどりの保存に関わっている大学生と出会うことにより、児童の羽根盆おどりを大切にしようとする姿に大きく変容が見られた。年齢が近いこと、同じ荘原出身であることから、ふるさとへの貢献意欲が高まった。</p> <p>(学力育成の視点から)</p> <p>それぞれのゲストティーチャーの取組や思いを基に、児童が関連付けたり、選択・判断したりすることができた。また、児童の考えをゲストティーチャーに評価言を言っていただくことで、児童の主体的に取り組む態度が高まった。</p> <p>4 課題や今後の展望</p> <p>昨年度の課題として、ゲストティーチャーが講師、子どもが受け手という構図になってしまい、講義型の授業になることがあった。前時までに問いづくりを丁寧に行い、教師がその問いを適切に取り扱い、子どもたちと共に届けるといったファシリテーターの立場を担うことで、問題解決型の授業に昇華することができたと感じる。</p> <p>今後は、持続可能な教材づくりを目指す。そのために、まず、年度終わりに学年部でふるさと教育の引き継ぎを行い、次に、ゲストティーチャーを動画化・資料化して誰でも使えるようにすることが必要である。</p>			

※取組の様子がわかるような画像(1枚が500kb以下)を数枚貼り付けてください。

※しまねのふるさと教育ホームページ等に掲載される場合があるため、画像等は必ず承諾を得たものにしてください。